

スロベニアでのインターンシップ

量子ビーム応用以降学研究室 中村太智

概要

- 期間：2015/8/10～12/30
- 派遣先：Jozef Stefan Institute

体験談

約5か月間スロベニアの研究所でインターンシップを行ってきました。主に、他の研究者のフィールドワークの補助、試料の下処理を行っていました。また自分の研究テーマであるCO₂に関しては、連続モニタリングや同位体分析のサンプル採取などを行いました。スロベニアの言語はスロベニア語ですが、研究者はもちろん若い人は英語が話せるため、コミュニケーションは英語で行っていました。スロベニアは日本からの観光客も少なく、日本人がほとんどいないため、インターンシップ期間中は日本語を話すことはほとんどなく、常に英語を考えているという環境で、日本語に頼ることが出来ない状況は英語の上達には非常に良かったと思います。またこれがヨーロッパでの初めての滞在でしたが、いままではヨーロッパと聞くと、先進的で、様々な面で非常に優れており日本のずっと先を行っているイメージを持っていました。しかし実際に行ってみると、そんなことはなく、逆に日本の良い所、進んでいる所を感じることが出来ました。この経験は、僕の中では最も重要な経験の1つだと考えています。この経験によって将来、社会に出て外国で働くことになったとき、自信を持って挑戦することが出来るようになったと思います。

研究所での活動以外にも多くのことを学びました。日常生活では、ヨーロッパ圏の価値観、文化、食生活などをありのままに感じる事が出来ました。また週末はスロベニア周辺の国々を訪れ、それを通して、ヨーロッパの交通事情やインフラ、国ごとの特徴や共通点を現地で感じる事が出来ました。特に東ヨーロッパ諸国では、まだまだ戦争の爪痕や、争いの種が残っており、ヨーロッパのイメージとはかけ離れた国々があったり、国によって宗教に関する考え方が全く違ったりと、非常に興味深いものを多く見ることが出来ました。それらを実際に見たり、感じたりしたことによって得た様々な価値観は、自分の将来、就職や日本での生活、物事のとらえ方、考え方に非常に大きな影響をもたらしたと思います。

最後に、このような貴重な経験をする機会を与えてもらったこと、滞在中様々なサポートをしていただいた先生や受け入れ先の方々に感謝します。



写真 Bled lake, Slovenia

スペインでの国際学会発表

中村太智

概要

- 期間：2016/11/6~9
- 学会：2nd International Conference on Radioecological Concentration processes (Seville, Spain)

体験談

修士2年の11月にスペインのセビーリャで行われた国際学会でポスター発表を行ってきました。昨年スロベニアに滞在した経験から移動や食事など生活については、しっかりとした英語ではないなりに自分の伝えたいことは伝え、したいことをすることはできました。そのため学会発表においても、ある程度できるのではないかと考えていました。しかし実際にやってみると、細かい部分を正確に伝えたり、特に注目して欲しい部分を強調するといったことが自分が思っている通りにはできず、さらにそれで焦ってしまい他の部分でもうまく伝えられなかったりしました。結果的には、自分の前進と至らない部分を確認させられるものとなりました。それでもポスター発表が終わってからの時間に質問されたときには、時間をかけて説明することが出来たため、理解してもらうことが出来、さらに質問をしていただけたり、アドバイスをもらうことも出来ました。

講演では、自分と分野の違う研究が多くあったため、聞き取れなかったり理解できないことも多々ありましたが、多くの国の研究者が英語で発表していたため、

少しずつ違う英語の発音を聞け、国ごとの英語の特徴などを感じることが出来ました。そのような中で、改めてへたくそな英語であっても、恥ずかしながら積極的に話していく経験をしていくことが重要であると感じました。



親睦会，セビーリャ



講演の様子